

第15回全日本ユース(U-15)水球選手権大会－桃太郎カップ－【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター 【2022/12/25】

この試合のプレー集計

3位決定

高知県選抜	12	<table style="border-collapse: collapse; margin: 0 auto;"> <tr><td style="padding: 2px 5px;">2</td><td style="padding: 2px 5px;">－</td><td style="padding: 2px 5px;">2</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 5px;">1</td><td style="padding: 2px 5px;">－</td><td style="padding: 2px 5px;">3</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 5px;">4</td><td style="padding: 2px 5px;">－</td><td style="padding: 2px 5px;">7</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 5px;">5</td><td style="padding: 2px 5px;">－</td><td style="padding: 2px 5px;">3</td></tr> <tr><td colspan="3" style="text-align: center; padding: 2px 5px;">PSO</td></tr> </table>	2	－	2	1	－	3	4	－	7	5	－	3	PSO			15 神奈川選抜
2	－	2																
1	－	3																
4	－	7																
5	－	3																
PSO																		

審判： 宇田川 佑里子
伊藤 晃二

高知県選抜	36	SH数	26	神奈川選抜
	1	速攻数	7	
	10	ST・SB	4	
	9	SH・P誘発アシスト	13	
	29%	GK阻止率	60%	
	9	EX反則数	4	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

今大会だけでも両チームの成長を感じさせる3位決定戦。お互いに攻撃の軸は明確なだけに、どうディフェンスで対応するか。次のステップへ進むためにも明確なゴール設定で臨んでもらいたい一戦。

【1P】

神奈川は高知⑦ローリーに対してダブルマーク。高知はなかなか突破口を見つけられず、一方の神奈川も素早い戻りディフェンスの高知に決定機を作れない一進一退の攻防が続く。先制したのは高知。退水攻撃のチャンスを得て、外周から③橋田が決めた。すぐさま神奈川もセンター⑤三原が決めて同点に。続けて、退水攻撃のチャンスを神奈川⑩弘田が確実に決める。高知も退水誘発からすかさず③橋田が決めて同点(神奈川2-2高知)。

【2P】

神奈川センターの⑥鈴木が粘ってゲットすると、高知⑦ローリーが応酬。中央ドライブに合わせてパスを受けてからのシュートが決まり再び同点に。しかしこの後、神奈川の攻撃圧力に退水、ペナルティと徐々に高知は追い詰められていく。このピリオドだけで2本のペナルティを誘発して得点を積み上げた神奈川に対し(⑦柁)、攻撃の糸口が見いだせない高知の差は広がり始め、神奈川5-3高知と神奈川優勢で第2ピリオドを終えた。ゲームの主導権を握った神奈川だが、攻撃時の動きが足りず、前線プレーヤーが孤立気味。そこでオフェンス反則を繰り返すなど、今一つリズムに乗れていない。

【3P】

似たような試合展開が続き、神奈川に高知が食らいつく。高知ベンチはダブルマークされる⑦ローリーを中盤のディフェンス重視に配置し、何とか糸口をつかもうとするが、神奈川側にすれば守備へ人数を掛けなくても済むことから積極的に前へ出やすくなった形で、⑤三原や⑦柁らの攻撃の手数が分厚くなった。その結果、ペナルティ、退水を多く誘発し、確実に加点していき、神奈川12-6高知と一気に引き離れた。ピリオド最後、高知⑦ローリーがブザービートで得点したが、神奈川12-7高知で最終ピリオドへ。

【4P】

点差を詰めるしかない高知は⑦ローリーを前に。その分、神奈川としては攻撃しやすくなり、多少の失点があっても取り返せる試合展開に持ち込んだ。高知はスタメンの一人を3PFで欠いていることもあり、ボール接点で劣勢になることが多く、得点してもリズムに乗れない展開が続いた。神奈川はゴール前でのドライブで攻勢をかける試合展開。終始ゲームの主導権を握った神奈川が神奈川15-12高知で勝利し、第3位を確保した。

序盤の神奈川は攻撃を犠牲にして高知⑦ローリーへのダブルマークが功を奏した形となった。序盤のそうした我慢の水球が、第2ピリオド中盤以降に機能し始めた形で、ベンチワークの巧みさが光った一戦だった。